

## 2025年5月のブルーベリー農園その2

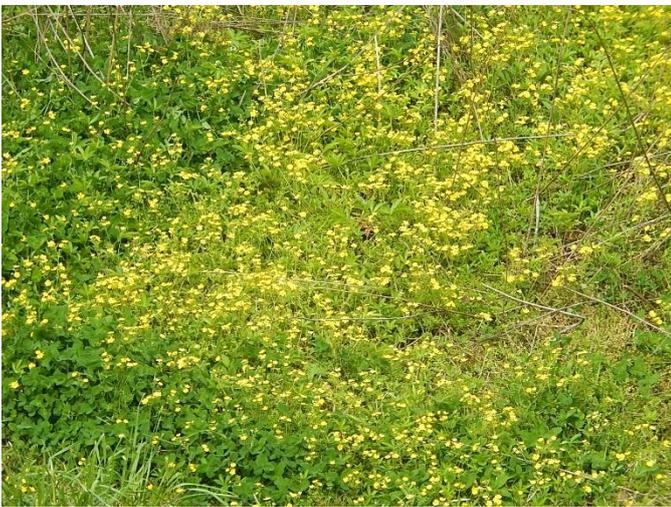
晩春とも初夏ともいっていい季節で5月13日の東広島市豊栄町のブルーベリー農園の日中の気温は26度にまで上がり初夏の暑さになったが、時折吹く風はとてもさ

わやか。寒いとあまり活動しないミツバチもブンブンと飛び交ってブルーベリーや地べたの野の花の蜜を吸ってくれるので受粉、結実が順調に進んでいる。昨年は安芸の郷へのブルーベリーの実の納品が前年に比べて4割も少なかったが、今年は例年並みに実りそうなのでブルーベリーの剪定作業に安芸区の自宅から通うのもちょっと軽やか。

5月12日(月) ブルーベリー畑の隣の休耕田には今年キジノムシロの花がたくさん咲いている



咲いた花がずらっと広がっている



5月13日(火) ブルーベリー畑の桜の木にぶら下げているペットボトルの捕獲機には3匹入っていた。気温が高くなってきてスズメバチの動きが活発になっている

《2025年5月15日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》



こちらは地べたに咲くクリムソクローバーの花の蜜を吸うミツバチ



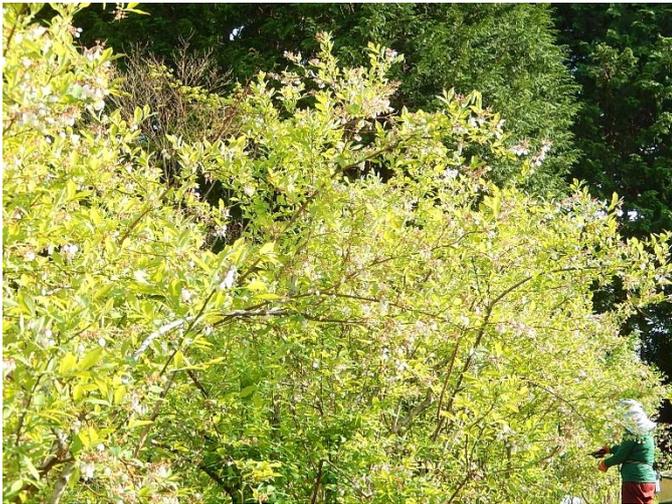
5月10日(土) ブルーベリー畑では大きく鳴いた後羽を羽ばたかせるオスのキジがいる。いつも農作業中に見ているとこの一連の動作は定期的に行うのがわかってきた



5月13日(火) もう一つの野鳥。里山の小高い丘のブルーベリー園からは田植えの終わったサギがじいーと水面を見つめているのが見える



5月12日(月) 満開のブルーベリーとミツバチの羽根音の中で里山のブルーベリー園の剪定を続ける。



5月13日(火) マムシグサを探しにため池に行く。のり面に一株だけ咲いている



エビネは同じ花色でたくさん咲くと見栄えがする



ブルーベリー畑ののり面に咲くオオタニウツギ



元気な枝にたくさん結実したブルーベリーの実



植えられた早苗はまだひっそりとしているが、のり面のキジムシロの黄色い花は元気



2025年5月15日

社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良